

【高等学校用】

令和3年度学校評価結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立唐津西高等学校
1 前年度 評価結果の概要	「双松の力」の育成を図り、全職員で組織的に、そして、協働的に教育活動に取り組んだ。特に、地域の人的・物的資源を活用し、保護者や地域の力を教員指導をはじめ学校教育活動全体に積極的に生かしながら、教育活動に邁進した。今年度はコロナ禍で、教育活動が制限や変更を余儀なくされる中でも、最大限の効果が得られるよう様々な工夫を行った。次年度も良い面は残し、不備な部分は改善していく。そして、新たな唐津西高校の飛進のために、グランドデザインのもと、来るべき社会である超スマート社会(Society5.0)を逞しく生き抜き、持続可能な社会の作り手として、ふるさと佐賀の郷土と自然を誇り思い、国際社会や我が国とともに地域社会に貢献できる心豊かな志のある人間の育成に努めていく。

2 学校教育目標	「地域社会の未来を担う志のある人材」の育成 ・人となりが力を大切に、情報の取捨選択ができる、確かな人間力を持つ者の育成 ・協同の精神を持ち、地域の課題を発見し、地域から信頼される者の育成
----------	---

3 本年度の重点目標	・地域に信頼され、選ばれる学校づくり ・基礎学力の定着と多様な進路先の実現 ・特別活動・生徒会活動・ボランティア活動の充実 ・コミュニティ・スクールを活用した魅力と活力ある高校づくり
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目	評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
					達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提案
●学力の向上	●教師の指導力の向上。 ○生徒の理解度の向上。	○生徒による授業評価の満足度の評価を90%以上とする。 ○教師がITを活用し、動画配信及びオンライン授業に取り組んでいる。	○授業見学会実施。(各教科年2回以上) ○学期1回以上の学習状況調査を行う。 ○ICT研修(5/27/28/29)、Classi、オンライン等)実施 ○授業評価アンケートによる振り返りを各自行う。	・指導方向上に係る公開授業の際は、教科を超えて授業内容や意図を共有する。 ・新任、1学年担当に対するICT研修を実施した。 ・オンライン授業の実施が日常的となり、スキルも向上している。 ・授業研究会・研究授業は、2回以上(教科によっては4回)実施できた。	A		A	・職員室前のスペースでの指導など幅やかな指導が行われている。
	○進路希望の向上 ○多様な進路希望の達成と大学進学実績の向上	○大学進学希望者の割合70%以上 ○国立大学合格者30名以上 ○4年制私立大学合格者120名以上	・学年、教科、分野と連携しながら、時機に応じた情報提供、集団指導、個別指導、講演会等を企画し、実施する。 ・進路検討会の充実 ・進路の進捗管理 ・進路の進捗管理	・面接、小論文指導が必要な3年生延べ155名を全職員で指導し、放課後特設学習室等を活用した結果、学校推薦型・総合型入試で国立大学18名、私立大学2名の合格につながった。一般入試の結果も期待できる。 ・公務員専門学校と連携し、計画的に早くから準備を進めることができたおかげで、公務員試験に9名を合格した。	A		A	・面接、小論文指導を全員で行うことにより、職員の指導力向上がなされている。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動することなど、豊かな心を身に付ける教育活動	●情動モジュールに関する意識及び知識を持っている生徒を80%以上とする。 ●学校生活において「明るい挨拶・気持ちよい挨拶」の励行する。	・「情動モジュール」教育講演会及びLHR実施 ・人権学習・進路指導LHR実施 ・振興会からの挨拶運動 ・ハチマツア講演会	・人権学習「進路指導LHR」を7月8日に実施し、1、2年生は、ネット上の誹謗中傷の問題について、3年生は高層中学校統一用紙についての授業を行った。 ・10月14日(木)にキャリア教育講演会「元中野学教師 講演会」による「命の授業」を実施。 ・振興会からの挨拶運動は5月と11月に実施した。	A		A	・教科外、校外の活動が充実しており、それが地域からの高い評価につながっていると思う。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○教育活動アンケートの「いじめ防止及び対応」について「満足している」評価を95%以上を目指す。	・学校全体で多面的に生徒の状況を把握し、理解・支援する体制を整える。 ・生徒の欠席状況を確実に把握し、欠席が10日を超えた生徒には、ケース会議を行う。 ・情報共有の一環としての効果的な活用を図る。	・アンケートのみではなく、日々の生徒との関わりの中で早期発見できる体制ができていない。 ・今後も生徒支援と学年主任と連携を密にしていきたい。 ・いじめに関するアンケートにおいて訴えがあった場合は、発覚案件として委員会を開き迅速に対応できた。 ・また、欠席が多い生徒については、ケース会議を行い対応できている。ケース会議・生徒情報交換会とも、年間3回ずつ実施できた。今後も生徒支援と学年主任と連携を密にしていきたい。 ・教育活動アンケートの「いじめ防止及び対応」について「満足している」評価を90.7%。	A		A	・生徒と教員との距離感が近く、何でも相談できる環境が保たれていると感じる。
●健康・体づくり	○夢や進路希望の実現に向けて努力する教育活動の推進	○「唐津検定」合格者70% ○ルーブリック評価における「地域力」の生徒の自己評価を3.0以上を目指す。 ○キャリアパスポートを全生徒が活用できていることを目指す。	・唐津検定受験 ・ふるさと佐賀を誇りに思う教育講演会 ・総合的な実践の時間、特別活動を通して、キャリア教育の体制を構築する。 ・ルーブリック評価及びキャリアパスポートを定期的に活用し、的確な振り返りを行う。	・唐津検定受験 ・ふるさと佐賀を誇りに思う教育講演会 ・総合的な実践の時間、特別活動を通して、キャリア教育の体制を構築する。 ・ルーブリック評価及びキャリアパスポートを定期的に活用し、的確な振り返りを行う。	A		A	・新しい大学入試制度に対応するためには、コミュニティスクールの取組が重要であると感じる。「総合的な実践の時間」の取り組み方をシステム化して、効果的に活用したい。
	●「望ましい生活習慣の形成」(感染症の予防と対応) ○各科健康診断後の受診率向上	○感染症予防について、マスクの着用と、うがい・手洗い・手指消毒のこまめな実施を徹底させ、100%の習慣づけを目指す。 ○健康診断について、歯科は30%、その他は26%を目指す。	・委員会での呼びかけや、教室・廊下のポスター掲示・保護だにより、意識の向上を目指す。 ・学期初1回以上の生活習慣アンケートを実施する。 ・学校と家の連携を密にして、受診勧告及び啓発活動を行う。	・感染症予防を高めるポスターの掲示やボランティアアワードと連携した毎日の校内消毒を行った。通常マスク着用・手洗消毒・昼食時の除菌等を徹底することができた。 ・定期的な三者面談時、定期健康診断結果を受けての受診勧告書を出した。その後、受診率が前年度より大幅に向上した(内科50%、歯科14.9%、眼科25%、耳鼻科26%)。 ・生活習慣アンケートは8月に実施された。	A		A	・受診率が向上したとは言え、まだ低いようだ。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○部活動の活性化	○部活動参加率95%以上を目指す。 ○リーダー育成	・部活動紹介の工夫 ・部活動の取り組みの共有 ・部活動のリーダー研修会	・最終的な部活動参加率もほぼ目標を達成できている。近頃は部活動ボランティア部の活動が顕著で、教職員の負担軽減や部活動の活性化に貢献している。地域企業から表彰を受けた。地域貢献活動で各種メディアに取り上げられたりするなど、本校のイメージアップに大きく貢献している。また、学校内でも放課後に校内の除菌作業をしてくれている。その他の部活動も各所で活躍しており、学校を活性化してくれている。	A		A	・ボランティア活動を面的な広がり発展させて欲しい。
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の削減 ○健康診断により、毎年度末休取得率平均10日以上を目指す。(5日未満の教職員0名とする)	・定時退勤日、学校閉庁日、年休取得推進日、部活動休業日の設定。 ・10日以上の生活習慣アンケートを実施する。 ・学校行事の見直し及び廃止の推進。	・夏季休業中など、学校閉庁日や年休取得推進日を設定できた。部活動の休業日設定に対する意識も向上している。 ・令和3年度の年休取得日数の平均は9.8日(昨年9.0日)、5日未満は5.9%(昨年6.1%)、最長5日の取得ができていないが、全体の取得日数向上を目指す。	B		B	・生徒のためにも、まず職員自身が心身ともに健康であるための取組の強化を。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
					達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提案
○コミュニティスクールを活用した魅力と活力ある学校づくり	○地域社会に貢献し、地域に信頼され、選ばれる学校づくり	○地域と連携した生徒の活動・行事を推進する。 ○地域の人材を活用したキャリア教育を推進する。 ○地域に貢献できる人材の育成を目指す。	・学校運営協議会を全3回実施する。 ・部活動(ボランティア・専属)単位での活動を学校全体の取組として発展させる。 ・地域関係者の講演を複数回実施する。	・ボランティア部を中心に、虹の松原清掃活動、からつ応援市場でのボランティア活動に参加した。 ・キャリア教育講演会では、地域企業の経営者を招き、講演や体験活動を行った。 ・からつ未来キッズ実行委員会の協賛協賛結。こども食堂の設立・運営へのボランティア参加。 ・他にも自主的に活動する生徒が増えている。	A		A	・キャリア教育の調べ学習、質問調査を行ったことにより、積極的な取組ができていた。 ・キャリア教育講演会では、生徒が将来のことをよく考えていることがわかった。
	○図書館の利用と読書活動の推進	○図書貸出し回数200冊以上を目指す。	・読書会の継続の実施 ・図書資料の積極的な更新 ・図書貸出しの推進	・2月末までの図書貸出し数は約1,300冊にとどまる。 ・読書会の時間は静かに読書することができたが、読書以外の利用が多くなり、十分な時間は確保できなかった。 ・図書資料の更新と図書貸出し等の情報発信は随時行うことができた。	B		B	・学校でもボランティア活動に取り組んでみると良い。
○特別活動・生徒会活動・ボランティア活動	○生徒会活動・ボランティア活動の充実	○クラスマッチ・双松祭を生徒主体で運営 ○ボランティア活動の拡充を行い、ボランティアに対する意識を持つ生徒を50%以上を目指す。	・学校行事等の可成り進行、双松祭の企画運営。 ・ボランティア部を中心に、学校全体でボランティアに取り組む体制の構築。 ・キャリアパスポート(ポートフォリオ)の活用。	・クラスマッチを生徒会役員が中心となって運営した。感染症対策や安全の確保等については、教員から助言をおこなったが、実施に関しては生徒がほぼすべてをおこなってくれた点は成長が見受けられた。 ・ボランティア部の内外での活動が広く知られ、生徒にも大きく影響しており、その活動に協力したり、一緒に活動に参加したりしている。今後もこれが、各所へ良い影響を与えていくことを期待したい。 ・総合的な探求の時間等でキャリアパスポートの重要性を実感している生徒が増えているので、今後はその定着を図る。	A		A	・制服など、地域の人が着る唐津西高をどのように見ているのか意見を聞く(委員会を設けてはどうか)。
	○開かれた学校づくり	○学校HPへの更新100回以上及びアクセス数の増加を目指す。 ○学校閉庁日における保護者の授業参観者を50名以上とする。 ○教育活動アンケートの「重点目標を知っている」保護者を90%以上を目指す。	・HP、メール配信、SNSの活用による学校の情報発信を行う。 ・中学生的な学校見学会の内容の充実。 ・学校開放日を魅力ある内容にするとともに、開催についての周知に努める。 ・地域のボランティア活動に積極的に取り組む。	・学校行事や部活動の活躍等を、HPに掲載するようになった。中堅新100回。 ・学校の取組、影響を受けて体験入学を実施した。夏に、複数の体験授業、秋はオンラインを取り入れた体験授業を行った。秋は中2生の参加が多かった。 ・学校開放日は、午前中のみ公開したがいり、目標を超える60名の参加者がいた。 ・糸島地区、長崎県豊後県など県外中学校への説明を積極的に行った。 ・教育活動アンケートの「重点目標を知っている」保護者は28.7%、昨年(36.1%)より減少。保護者会中止や学校行事への保護者参加の減少のため、浸透できていなかった。	A		B	・学校ホームページにもっと目くむ工夫が欲しい。 ・制服のあり方を生徒と話し合っていることなど、中学生にアピールしき行いたい。

5 総合評価・次年度への展望	「双松の力」の育成を図り、全職員で組織的に、そして、協働的に教育活動に取り組んだ。特に、地域の人的・物的資源を活用し、保護者や地域の力を教員指導をはじめ学校教育活動全体に積極的に生かしながら、教育活動に邁進した。コロナ禍が続き、教育活動が制限される中でも、最大限の効果が得られるよう様々な工夫を行った。次年度も良い面は残し、不備な部分は改善していく。そして、新たな唐津西高校の飛進のために、グランドデザインのもと、来るべき社会である超スマート社会(Society5.0)を逞しく生き抜き、持続可能な社会の作り手として、ふるさと佐賀の郷土と自然を誇り思い、国際社会や我が国とともに地域社会に貢献できる心豊かな志のある人間の育成に努めていく。
----------------	---

●...員共通 ○...学校独自 ○...高を高める教育